

アメリカ合衆国における地理教育復興運動の展開(1)

——ミネソタ州現職教員研修会について——

愛知教育大学地理学教室 寺 本 潔

The trend of Geographic Alliance Network in the United States of America(1)

——”NGS Geography Institute” in Minnesota——

Kiyoshi TERAMOTO

Geography Department of Aichi Univ.
of Education

I はじめに

筆者は、1990年度文部省在外研究員（長期）として、1991年3月25日より92年1月23日まで、アメリカ合衆国ミネソタ大学カリキュラム教材研究センターに籍を置き、日米の地理教育の比較研究を行ってきた。本稿は、研究の主目的の一つである全米地理教育復興運動（Geographic Alliance Network 1986～95年実施）の動向について紹介したものである。すでに、アメリカ合衆国の地理教育改革の動向に関しては、広島大学の中山修一氏が、著書、『地理にめざめたアメリカ』（古今書院、1991年5月発行、131ページ）の中でその初期（1987年前後）の動向について詳細にまとめているので、割愛するが、地理教育復興運動の中核の一つである現職地理教員研修会の内容については、未だ紹介されていないので、本稿においてその概略を解説してみたい。

地理教育復興運動の多くのプログラムの中でも①National Geographic Society¹⁾（全米地理学協会）主催の夏期研修会と②各州別地理学連合ネットワークの夏期研修会の二つは、基幹事業であり、米国民の地理意識向上のためには、児童・生徒への地理教育の強化を、そしてそのための最も効果的な方法は、現職教員の再研修にあると位置づける考え方に裏づけられたプロジェクトである。こ

れらの二つの事業は密接に関係しており、まず①の研修会（於、ワシントン）において、各州から選抜された幼・小・中・高校の教員が、1ヵ月近く地理学と地理教育に関する集中研修を受ける。次に、研修を終えた彼らが自州にもどり、②の州レベルで、他の教員の指導・助言を行うというシステムになっている。これらの事業の財源は、全米地理学協会の教育財団を中心として科学教育復興財団や州の教育庁よりの支援などでほとんどまかなわれ、現職教員の負担はほとんどかからないようになっている。²⁾また、研修会に参加した教員については、大学の単位認定が与えられ、将来の管理職昇任への一つの実績づくりにも役立っている。現在（91年秋）、41州の州がこの運動に参加しており、ほぼ全米レベルで、毎年、夏期研修会が実施されているという形になっている。全米レベルの情報交換のために、『UPDATE』という季刊の小冊子が発行（約三万部）され、さらに州レベルでは中心的な Alliance Coordinators（アライアンスコーディネーター）の発行によりニューズレターが各教員に配布されている。筆者は、②の部分に当たる州別の研修会に1991年夏期に参加したので、以下にそのスケジュールと内容について紹介したい。

II ミネソタ州NGS地理教育夏期研修会のスケジュールについて

筆者が参加したミネソタ州のNGS (National Geographic Society) 主催の研修会は、復興運動の州内世話人であるDavid A. Lanegran 教授の勤めるセントポール市のマカレスター大学において、6月12日から28日に至る3週間にわたって開催された。参加者の内訳は、次の通りである。小学校教員20名、中学校教員11名、高校教員4名、大学教員3名、計38名。これらの参加者を次の6名の研修会スタッフ（前年までにワシントンで中央研修を経験した教員）が指導・助言の役割として世話した。Jim Hanson (オルソン中学校), Craig Hattam (リンコリン中学校), Ann Hoehn (マラカ小学校幼稚園), Mike Stacey (セントラル中学校), Maureen Trepp(アンダーソンオープンスクール), Jo Ann Trygested (ローズマウント中学校) 及び総括世話人として開催校のマカレスター大学地理学教授 Jerry PitzlとDavid Lanegranが加わる形となった。筆者は、上記スタッフの内、小学校教員の分科会を世話したAnn Hoehn氏のグループに入り、以下のスケジュールのほぼ全部の研修に参加した。

<1991年NGS GEOGRAPHY SUMMER INSTITUTEの概要>

第1週	[午前の部]	[午後の部]
6/12	参加者紹介 ビデオ視聴（「探検への旅立ち」） 「我々はどこにいるか？」の概念討議、Pitzl教授の講義（「社会科学、社会科、そして地理学」）	現職教員によりグループ討論とアイデア交換
6/13	Lanegran 教授の講義（「地理学五大テーマについて」）、グループ討論とアイデアの交換	ミネソタ大Borchert 教授の講義（「都市化地域について-Twinシティ」）、パソコン模擬授業
6/14	ミネアポリス・セントポール市域の一日	

エクスカージョン（指導Lanegran教授）
内容：民族集団ごとの居住形態見学，地形，都市化，環境問題，歴史的建造物の見学等。（チャーターバスによる。）

第2週	マウンドビュー教育委員会St.Peter女史の講義（「教師のための地理教育」）、グループ討論	ビデオ視聴（"NGS児童ネットワーク"）、ワバシャケログ中学校Jill Cook女史によるコンピュータソフトの実演
6/17		
6/18	マカレスター大Colins氏によりクリティカル思考法の講義、グループ討論とアイデア交換	共同学習についてとコロプレス地図をテーマにした討論、ミネソタの社会科教育について（社会科協議会Wargen氏の解説）
6/19	"人口動態"についての把握と実際の指導方法（人口情報研究所Kim Grews氏による紹介	午前の続き グループ討論と教材化への意見交換
6/20	ミネソタ科学博物館学芸員Sue Anderson氏による水文学関連の解説	ミネソタ大学地図図書館及び地質・航空写真センター訪問、夕食後、ソビエトのスライド上映会視聴
6/21	タンザニア大Scott教授による講義（「発展途上世界の諸問題」）、グループ討論	ミネソタ地方テレビ局解説員John Carlson氏による解説（「ミネソタの地理解説番組制作について」）
第3週		
6/24	南部ミネソタのエクスカージョン（指導：Lonegran教授）	内容：ミシシッピ川流域の開発、インディアン地名、等高線耕作と土壌保全、農家見学、化石採集、観光開発と歴史的景観の保全、りんご加工
6/25		

- 工場見学，廃墟と化した山地集落跡。
(チャーターバスによる。)
- 6/26 地図の活用法について
の解説 グループ討論
- 6/27 モスクワペダゴジ
カル大学Kondakov教授による最近のソビエト事情の講義
- 6/28 教材研究発表の続き
- メンバーによる教材研究発表と討論
- メンバーによる教材研究発表と討論
- 記念写真撮影及び研修会終了証書の授与式

III 印象に残った二、三の研修内容

(1) 地理学5大テーマの徹底

全米地理教育復興運動が当初から掲げていたキャッチフレーズは、複雑でつかみどころのない地理事象を次の五つのテーマに分けて把握しようということだ。その五つとは、Location(位置)——地表面での位置、Place(場所)——自然的・人文的特徴、Relationships within Places(場所内の人間と環境の関係)、Movement(移動)——地表における人々の相互作用、Regions(地域)——どのようにそれらは成り立ち変化してきたか、という言葉であった。これらの五大テーマは、今回の夏期研修会でも力強く唱えられた。研修会2回目に開かれたマカレスト大学地理学教室のラネグラン教授の講義も、始終このテーマをどう理解するかに話の力点がおかれていた。講義内容の詳細については、別稿で改めて紹介したいが、全米地理教育復興運動のバイブル的存在となった『地理教育ガイドライン』1984年発行の立役者の一人でもあるラネグラン教授の主張は、簡潔で実にわかりやすい内容であった。氏の五大テーマ発想のもととなった論文は、『An Invitation to Geography』1973年、Mc Graw Hill Inc.発行の中に納められている”Geography in Everyday Life”日常生活の中の地理学”という論文であるが、この冒頭の表現「Where are you?」(君はどこにいるのか?)は、研修会のいたるところで耳にした言葉でもあった。氏は、五大テーマの理解を一層促す

ために、研修会では、多くの地理写真を使い、写真に写っている景観をどのテーマに担当するか、例えば、中西部の耕作景観を指しては、「”Relationships within Places”に当たる」、「古い歴史的な都市は、Regionsの概念で理解する」というように、複雑な地理事象を五つに分類して、何が最も強くあらわれているか、を常に考えて指導に当るべきだと唱えた。研修会参加者の内、小学校教員は、社会科に関心はあるものの、必ずしも専門領域とは言えず、最初はとまどいもみられたが、次第にテーマの意味を理解していったようである。研修会最後の懇親会席では、料理の並べられたテーブルを指しては、「”Regions”と冗談を述べるまでになったことが印象深い。

(2) ”人口動態”の学習

研修会第2週目に開かれた人口情報研究所(ワシントンD. C)の派遣講師による人口動態に関する解説も筆者にとっては、印象深い研修内容であった。この研修は、詳細な世界の人口統計地図の提示から初まった。ビデオにまとめられた有史以来の各大陸の人口増加ドットマップは、西暦を示す数字が19世紀を示す時点から急速に増え出し、20世紀に至っては中国、アフリカ、インドに人口のドットが集中し、さらに21世紀の時点まで予想図示した点で、興味深い教材であった。参加者からは、人口増加にかかわる諸問題の多くが、ささやかれたし、アジア地域にとりわけ増加の極があることをしっかりと認識できたようだった。人口動態についての学習では、世界の国別人口統計表が配布され、同時に番号札を各人がもらい、統計表に記載されている国の人口ピラミッドを番号札を持っている各人が作成するという学習を行った。その結果、先進工業国と発展途上国とでは、人口ピラミッドの形が大きく異なること、男女の人口差や世代別の人口差が何をもたらすのか、様々な地理的問題とかかわって重要な学習テーマになり得ることが力説された。テキストとして、無料で『Connections——Linking Population and the Environment』生徒用と教師用書の二冊が配布され、一層、人口学習の面白さを理解させる上での有益な教材となった。このテキストの内容に

についても、機会を見て別稿で紹介したい。

(3)面白い分科会ごとの教材研究発表

マカレスター大学の地理学教室大講義室とその周辺の四教室を会場にして、高校分科会、中学分科会、小学校低・中学年分科会、高学年分科会の4つに分かれて、グループ討論やアイデアの交換などを持った。筆者は、小学校低・中学年分科会に属し、ミネソタ州の小学校教師の教材研究発表を参観した。その中で、比較的興味深かった内容を三つ紹介したい。

一つは、スタッフの一人であるAnn Hoehn（アーン・ホーエン）教師の発表である。彼女の発表は、幼稚園児にどのような地理的意識を育てるかに力点がおかれていた。全米レベルにおいても幼稚園レベルから地理教育の必要性を考える実践者が少ない中で、彼女の方法は、実に実用的な教材から入るやり方をとっていた。家具のおもちゃをセットでとり出し、幼稚園児に与え、ある一定の枠の中に、どのように家具を配置したら、快適な暮らしができるか、を考えさせるものであった。また、配置が終わったらその上部に、透明シートをかぶせ、上からのぞかせて、家具のおもちゃの形と同じ四角や円の紙（色紙）を配置どおりに置き直させる方法は、そのまま平面地図の読み取り能力育成に発展できる優れた指導法であった。彼女は、他にも多くの教材を開発しており、ミネソタ州の地理教育復興運動のメンバーとしても活躍している。

二つ目は、Richard Cash（リチャード・キャッシュ）セントポール公立小学校教師による発表である。彼の教材は、学校内におちているゴミであった。校舎内や教室内にあらかじめ半ば意図的にゴミを配置しておき、それを児童に拾わせる。その後、ゴミのすてられていた場所の平面図を出し、いくつかの場所ごとに分割し、ゴミの種類と数をコロプレスマップの凡例を参考にして段階別表示するというものであった。ゴミ拾いの児童役にさせられた我々は、楽しく教室内からゴミを袋に集め、先生役の彼のところへ持っていった。そして、一つ一つゴミ袋から興味深いゴミを取り出しては、それが置いてあった場所（ゴミの捨て場所とゴミ

の種類との関係）との関連を丁寧に尋ねるのである。例えば、パソコン機器の近くで見つけた印字用の紙くずや窓ぎわにおちていた木の葉、ゴミバケツの近くに捨ててあったペプシコーラの空きカンなどを指し、どうしてその場所にそういうゴミが置いてあるか？を考えるのである。ゴミの種類別・数量別地図をOHPで作成しながら、分布の意味について児童と共に考えるというものであった。

三つ目は、5年生担当のセントポール市公立小学校教師Marcia Thompson（マーシャ・トンプソン）氏による発表である。彼女の発表内容は自然地理的内容に関するもので、色々な雑誌類から収集してきた景観写真類を配布し（多くはトラベル雑誌）、その中に写っている山地や植生、集落、火山、溶岩流、港などを厚紙の台紙にアウトライン（景観要素ごとの外枠）写しとり、色紙をそれらの形に切りとって貼り重ねていくという方法であった。例えば、ある湾の美しい写真があると、まず台紙に青い色の海を見立てた色紙を貼り付ける。次に、湾の形を形どった陸地を茶色の色紙で形どり貼り付ける。その上にさらに、港や建物の集まっている地区の形を、最後に岬の林地や船の形の色紙を貼り重ねるというものであった。つまり、自然景観の上に人文景観が形成されているという関係、五大テーマで言えば、場所内の関係を示す内容であった。

このほかにも、ミネソタ州内の郷土地理学習の進め方に関連して、各地域の観光案内をどのようなキャッチフレーズで行ったら一番、客がやってくるか、絵や言葉でカラフルにポスターを仕上げさせる学習や教室内の座席の位置学習から5平面地図の読み取りをさせようとする伝統的なプラン、五大湖の湖岸から拾ってきた砂の中に入っている様々な漂着物を分類させることから、湖岸の歴史や地域の変遷をとらえさせようとする学習プランなどが提示され、アメリカ教師のユニークな教材発想のいくつかを垣間見た思いがした。

IV 地理教員研修会に学ぶ点——わが国の現状と比較して

今回ミネソタ州で開かれた1991年度夏期研修会

に参加して、多くの刺激とヒントを得たが、その中で最も印象づけられた点は、現場の教師たちが実に生き生きとハードな日程の研修会に挑んで臨んでいた姿であった。アメリカの教師を取り巻く状況の差こそあれ、彼らの発想や工夫が、教師現場で生かされ、州内や全米レベルで教師間のネットワークが形成されやすい点をうらやましく感じた。

筆者が最も驚いた点は、地理教育振興の目的でこれほど熱心に長期にわたって現職教育に取り組むアメリカの教育界の熱意である。もちろん、日本とは比べものにならない財政的援助はあるにせよ、アメリカの小～高校、そして近年大学教養³⁾レベルにおいてさえも、地理教育の振興に力を入れてきつつある現状を知るに及び、わが国の状況は実にお粗末な状態と言わざるを得ない。

資料1に紹介した教師は、ミネソタ州の中学校教師であるが、1989～90年度の地理教育コンテスト(アメリカンエクスプレス社後援)で入賞した実績を持った。彼は、今回の研修会でも指導スタッフの一員となり、活躍した。こういった官民合わせた教師の支援体制は、わが国では余り見られな

いものである。アメリカンエクスプレス社の地理教育コンテストは、全米ネットのABCテレビでも流され、極めて著名な教育コンテストの一つとして定着しつつある。⁴⁾

教師の実践の支援する上で、無料の教材・教具の配布も忘れてはならない。地図教材会社として有名なランドマクナリー社は、各種の地図下敷きやポスター、白地図を無料で各校に配布しているし、全米地理学協会でも7名の教育部門スタッフを各州に派遣し、研修会の運営や日常の地理教育振興事業(例えば、博物館などで開かれる地理教育フェア)のインストラクターとしての働きや各種地理ビデオ教材の貸し出しや全米の小・中学校をパソコンで結ぶキッズネットワークの開催など、多様な形で、地理教育復興へ努めている。

各州で大きく異なるカリキュラムを持つアメリカでは、公民教育や郷土の地理や歴史については重視してきた歩みがあるが、自国の地理や南北アメリカ大陸の地理、そして世界地理レベルの指導に、大きく出遅れている感じがぬぐえなかった。しかし、今回の研修会の実績が10年程度、継続された後には、おそらくアメリカの地理教育レベル

THE GEOGRAPHY OF EARNING A LIVING
Central Place Theory, Hinterlands, and the Minnesota Twins' Market Region

CRAG HATTEN
 7th Grade World Geography Teacher, Lincoln Junior High School, Hibbing, Minnesota

This project introduces students to the economic implications of geography through Central Place Theory and the business of sports.

A teacher prepared hand-out defining key geographic concepts, a map of the greater metropolitan area, a blank regional map, a list of areas where local sports teams receive television coverage, background material on the role of professional sports teams in the regional economy, a student atlas, *The Counts and City Data Book* by the U.S. Bureau of the Census.

Three Day Lesson
 Three class periods.

Twins get an early start

Twins start late, late

W and to get seventh graders thinking about how local communities interrelate? By asking them if their home region has "too many sports."

As an avid sports fan, Craig Hatten was aware of the controversy brewing in Minnesota where he teaches, is the Twin Cities market area big and rich enough to support four major league sports teams, or is the local fan dollar being stretched too far? For Craig, the debate seemed to provide a perfect opportunity for his class to explore the connection between geography and economics.

So Craig created a handout that defined, in a concise way, the geography concept known as Central Place Theory, which holds that cities and their surrounding towns, villages, and rural areas, "hinterlands," are linked together economically as interdependent systems. The handout explained the theory in part through examples from pro sports. After reviewing the handout with his students on day one of the project, Craig sent them to textbooks and library resources to find other illustrations of Central Place Theory.

For the second day's session, Craig's students explored a map of communities in the outlying Twin Cities area, the "hinterlands." To his students' surprise, the map extends to encompass Minnesota and north into Canada. Next, Craig provided a blank map for the same region, a student atlas, and a listing of which towns and cities

carry Minnesota Twins' baseball games on their television screens. He had his students map out the Twins' market area. Then he posed the question, "What other baseball teams might the Twins be competing with for the major league baseball fan dollar?" His students identified other midwestern cities with pro baseball teams, and marked the TV market areas of these competing Central Place on their maps.

On the third day, Craig passed out a newspaper editorial and political cartoon arguing that there aren't enough local fan dollars to support all of the pro sports teams in the Twin Cities area. Craig challenged his students to identify and examine other U.S. cities that had at least one team in each major league sport—baseball, football, basketball, and ice hockey. Craig then had his students use the *Counts and City Data Book* to compare the population and per capita income of each of these cities (New York, Chicago, Detroit, Los Angeles, Philadelphia, and Boston) with those of the Twin Cities. Students were then asked to write an editorial, backed by research, on the stretched dollar issue.

Craig evaluated his students' statements and maps, and gave a short quiz on the geographic terms he had introduced at the start of the unit. The results were gratifying; the hands-on approach had made complex concepts clearly meaningful to his students.

Such results leave Craig optimistic about the future of geographic education. He sees ample opportunities ahead to integrate geography with economics, history and political science—while sparking student interest with timely topics. "I don't think anything in social studies is dry," Craig says. "You just have to work to bring that out, isn't it?"

Craig's project also him a first-place American Express Travel Award of \$1,000. He plans to use the award in part to invest in software and accessories that will allow him to create maps on his personal computer—all the better for bringing immediacy to geography class! (EJTC 3:1(1990)66-68)

資料1 1989～90年度アメリカンエクスプレス社地理教育コンテスト入賞した(エクスプレス社)の実践例報告記事
 ("Award Winning Teaching Ideas From the 1989-1990 American Express Geography Competition" p.2から抜粋した)

はかなり向上することだろう。

10年間(1986～95年)に約4000万ドル(55億円)の巨費を投じる地理教育復興運動をそのまま模倣することは、わが国において到底できるプロジェクトではないが、いくつかの点で、学ぶべきものがあるように思われる。例えば、今回報告した研修会のような機会を各県ごとに開けないかどうか? 『地理教育ガイドライン』に似た共通の目標や学習する上での共通の概念は打ち出せないかどうか? 日本でも財政的支援をあおぐ民間の地理関係がいくつかあるので、文部省と共同でシンポジウムを開いたりや各種教材を積極的に開発できないかだろうか?

もちろん学習指導要領が、いわばわが国の『ガイドライン』であり、その伝達講習会や毎年夏場に各県の教育センターや教育委員会が行う現職教育研修会、その下部的組織である市町村や郡レベルの社会科教師の集まりが、再研修の場に相当はするが、アメリカの場合と比べ、その研修の濃さと期間の長さ、研修内容のバラエティ(講義だけでない面)の豊富さには、雲泥の差があると言っても言い過ぎではないだろう。

アメリカ国民の国際競争力と自国愛の増加をねらって地理が強化されつつある背景を考えると、わが国における状況も決して楽観すべき位置にはないように思われる。この点については、また別の機会に述べたいが、地理知識の大規模な調査をそろそろ実施する時期にきているかもしれない。

V おわりに

夏期研修会を中心に、地理教育復興運動展開の一端を紹介してきたが、夏休み中の開催にもかかわらず参加者の和気あいあいの雰囲気と一方で熱気をも感じる勉強姿勢には驚かされた。資料2にみられる写真は、全員、緑色の研修会印の入ったポロシャツをユニフォーム代わりに着用して写っており、研修会の思いでづくりに心にくい配慮を感じた一コマであった。また、この会には韓国ソウル大出身の高校教師が4名参加(マカレスター大学にソウルの大学院生が在籍していた関係で)しており、韓国の地理教育研究の熱の入れ方にも感心した思いがあった。



資料2 1994年夏期研修会に参加したメンバー(写真左から右へ、前列はLanegan 教授、後列は寺本が筆者)

全日程、昼食付きでしかも、ほとんど実費を徴収されない(エクスカージョンを除いて)運営上の予算の使い方には、実に豊かな印象を感じた次第である。

注と文献

- 1) ワシントンにある地理学普及のための協会に創設100年以上の歴史を有する。初期には北極探検家やインカ帝国の史跡調査に後援したり、戦前～前後を通してナショナルジオグラフィックマガジン誌を発行し続け、世界の地理情報や自然についての優れた写真を紹介してきた実績を持つ。現在、ワシントン本部ビルでは、1500人が勤務し、教育セクションはその中の一つの部門に過ぎない。
- 2) 指導スタッフに対して、夏期研修会の運営に2000ドルが用意されている(約28万円)。
- 3) 大学教養レベルの地理教育改善プランとして次の文献が作成されている。Ruth I Shirey and Joseph W. Bencloski edited "THE INTRODUCTORY COURSE IN GEOGRAPHY FOR THE PRESERVICE TEACHER" Association of American Geographers, 1990, 101ページ。
- 4) ほかに、最近では、ピザハットと呼ばれるピザ食品会社が、『ジオリーダー』と呼ばれる冊子を作り、児童に地理的面白話をどのような教材であたえたら良いのかについて解説している。

VI 付録資料

州ごとの地理教員の研修に大きな役割を果たしている小冊子『UPDATE』(全米地理学協会発行、B5判大、約16ページ、2色刷)とミネソタ州内の地理教師のネットワーク作りに寄与してい

る『The Geography Connection』（マカレスター大学地理学教室内ミネソタ地理教育復興プロジェクト事務局発行、B5判大、約11ページ、単色刷）の2資料の表紙を以下に紹介しておきたい。前者は、最新の教育界の動向や有能な地理学者や地理教育論者の紹介、復興運動の州別世話人の住所、キッズネットワークの情報、文献案内などが想な目次である。後者のニューズレターは、州内の地

理教育関係会議や行事の案内、有能な地理教師の実践紹介、教材として使える統計地図などを掲載している。

<謝辞>

本稿作成に際して、研修会に快く参加を許して下さいましたマカレスター大学のLanegron教授に心より感謝申し上げます。

THE GEOGRAPHY CONNECTION

publication of the MINNESOTA ALLIANCE FOR GEOGRAPHIC EDUCATION

Volume 5, No. 2; Nov-Dec, 1990
Minnesota Alliance for Geographic Education
c/o Macalester College Geography Department
1600 Grand Ave., St. Paul, MN 55105 612-696-6731
David Lanegron & Pat St. Peter, coordinators

Charlie Fitzpatrick, ed., 2035 Highland Pkwy., St. Paul, MN 55116-699-1481

COORDINATOR'S COLUMN

by David Lanegron

"FOR LOVE, NOT FOR MONEY"

On October 17-18, I worked the MEA state convention for the first time. Wednesday afternoon, I packed the "Svenskamobile" with a quarter ton of paper, mostly from NGS sources, and headed west from HQ toward Minneapolis, wondering why on earth I was Pat, John Tryggvason, Mary Crampton, and Maureen Trepp talk me into this adventure. Meetings at Landmarks were put on hold as I resumed the ancient vocation of my family - playing teamster. The Minneapolis Convention Center was opened for the MEA Convention, so I had to drive around several construction sites before finding the loading dock. Of course, I had to do a little gawking at the skyscrapers. I own a part of several because TIAA-CREF keeps taking over bankrupt office buildings in Minneapolis. Having checked on my retirement funds, I was told where to unload, but left to my own devices to find a parking place. I parked at a meter on the street. Once inside, I learned that, while we paid our fee for the booth, we did not pay for a carpet or table. I decided against the carpet but got the smallest table possible. (Next year, we'll bring our own.) After toting in all those posters, handouts, cards, and flyers, I was stunned to see the electronic gadgetry that our neighbors were setting up to hype their products. I resolved to bring a few papers to correct on Thursday, because I was certain no one would even see the great posters from NGS and AmK's I had (unluckily) taped to the curtain providing our backdrop.

The convention exhibits were to open at 8:00 AM Thursday, so I got there at 7:15 to make sure I could find a spot at a meter. Pat parked free in the staff lot, of course, when she arrived suffering with a painful sprained back. The

COORDINATOR'S COLUMN continued on page 4

MEET OUR NEW LIAISON!

With the ever growing network of Alliance states, the Geography Education Program (GEP) folks at National Geographic Society (NGS) have more and more to do, and have some new troops to help with the tasks. With the shuffling of duties, Charles Sterling has had to give up some states in order to handle overseeing the Teaching Geography Project. Thanks for all your efforts on our behalf, Charles! Be sure to come back and visit us when you go to check on Michigan or Wisconsin!

Hello and welcome, LISA PRAGG, our new liaison! Lisa is the new liaison to CT, DE, MN, NV, PA, and RI. She comes to the GEP after working in the magazine illustration division, a somewhat curious place for someone to end up after graduating from U-Penn with a degree in French. Her first job after college was in Kenya, where she taught English and some business education, so Lisa knows what the teaching life can be like. Raised in Connecticut, Lisa's first experience with the Minnesota Alliance came at our recent Deep Portage camp, where she got to meet some long-time MAGS vets and some new recruits.

On a somewhat related note, word has come from NGS that the Alliance network has grown by several new states. Full Alliance status has been granted to Arkansas, Georgia, Nebraska, New Hampshire, Ohio, South Carolina, and Wisconsin. Planning grant status has been awarded to Iowa, Kansas, Nevada, North Dakota, Puerto Rico, Rhode Island, and Wyoming. Welcome, states!

Important note from the editor:

I have a new address! Note that the header up above includes a new address to send all your great news for inclusion within the Connection. Phone number stays the same, but please note the new address! Thanks, and keep those cards and letters coming! (By the way, can you tell what else is different in this issue?) - Charlie

THE GEOGRAPHY CONNECTION

publication of the MINNESOTA ALLIANCE FOR GEOGRAPHIC EDUCATION

Volume 5, No. 2; Nov-Dec, 1990
Minnesota Alliance for Geographic Education
c/o Macalester College Geography Department
1600 Grand Ave., St. Paul, MN 55105 612-696-6731
David Lanegron & Pat St. Peter, coordinators

Charlie Fitzpatrick, ed., 2035 Highland Pkwy., St. Paul, MN 55116-699-1481

COORDINATOR'S COLUMN
by David Lanegron
"FOR LOVE, NOT FOR MONEY"

On October 17-18, I worked the MEA state convention for the first time. Wednesday afternoon, I packed the "Svenskamobile" with a quarter ton of paper, mostly from NGS sources, and headed west from HQ toward Minneapolis, wondering why on earth I was Pat, John Tryggvason, Mary Crampton, and Maureen Trepp talk me into this adventure. Meetings at Landmarks were put on hold as I resumed the ancient vocation of my family - playing teamster. The Minneapolis Convention Center was opened for the MEA Convention, so I had to drive around several construction sites before finding the loading dock. Of course, I had to do a little gawking at the skyscrapers. I own a part of several because TIAA-CREF keeps taking over bankrupt office buildings in Minneapolis. Having checked on my retirement funds, I was told where to unload, but left to my own devices to find a parking place. I parked at a meter on the street. Once inside, I learned that, while we paid our fee for the booth, we did not pay for a carpet or table. I decided against the carpet but got the smallest table possible. (Next year, we'll bring our own.) After toting in all those posters, handouts, cards, and flyers, I was stunned to see the electronic gadgetry that our neighbors were setting up to hype their products. I resolved to bring a few papers to correct on Thursday, because I was certain no one would even see the great posters from NGS and AmK's I had (unluckily) taped to the curtain providing our backdrop.

The convention exhibits were to open at 8:00 AM Thursday, so I got there at 7:15 to make sure I could find a spot at a meter. Pat parked free in the staff lot, of course, when she arrived suffering with a painful sprained back. The

COORDINATOR'S COLUMN continued on page 4

MEET OUR NEW LIAISON!

With the ever growing network of Alliance states, the Geography Education Program (GEP) folks at National Geographic Society (NGS) have more and more to do, and have some new troops to help with the tasks. With the shuffling of duties, Charles Sterling has had to give up some states in order to handle overseeing the Teaching Geography Project. Thanks for all your efforts on our behalf, Charles! Be sure to come back and visit us when you go to check on Michigan or Wisconsin!

Hello and welcome, LISA PRAGG, our new liaison! Lisa is the new liaison to CT, DE, MN, NV, PA, and RI. She comes to the GEP after working in the magazine illustration division, a somewhat curious place for someone to end up after graduating from U-Penn with a degree in French. Her first job after college was in Kenya, where she taught English and some business education, so Lisa knows what the teaching life can be like. Raised in Connecticut, Lisa's first experience with the Minnesota Alliance came at our recent Deep Portage camp, where she got to meet some long-time MAGS vets and some new recruits.

On a somewhat related note, word has come from NGS that the Alliance network has grown by several new states. Full Alliance status has been granted to Arkansas, Georgia, Nebraska, New Hampshire, Ohio, South Carolina, and Wisconsin. Planning grant status has been awarded to Iowa, Kansas, Nevada, North Dakota, Puerto Rico, Rhode Island, and Wyoming. Welcome, states!

Important note from the editor:

I have a new address! Note that the header up above includes a new address to send all your great news for inclusion within the Connection. Phone number stays the same, but please note the new address! Thanks, and keep those cards and letters coming! (By the way, can you tell what else is different in this issue?) - Charlie

資料4 ミネソタ州内の地理教員に配布されている情報誌

(1991年12月24日受理)

THE GEOGRAPHY CONNECTION

publication of the MINNESOTA ALLIANCE FOR GEOGRAPHIC EDUCATION

Volume 5, No. 2; Nov-Dec, 1990
Minnesota Alliance for Geographic Education
c/o Macalester College Geography Department
1600 Grand Ave., St. Paul, MN 55105 612-696-6731
David Lanegron & Pat St. Peter, coordinators

Charlie Fitzpatrick, ed., 2035 Highland Pkwy., St. Paul, MN 55116-699-1481

COORDINATOR'S COLUMN

by David Lanegron

"FOR LOVE, NOT FOR MONEY"

On October 17-18, I worked the MEA state convention for the first time. Wednesday afternoon, I packed the "Svenskamobile" with a quarter ton of paper, mostly from NGS sources, and headed west from HQ toward Minneapolis, wondering why on earth I was Pat, John Tryggvason, Mary Crampton, and Maureen Trepp talk me into this adventure. Meetings at Landmarks were put on hold as I resumed the ancient vocation of my family - playing teamster. The Minneapolis Convention Center was opened for the MEA Convention, so I had to drive around several construction sites before finding the loading dock. Of course, I had to do a little gawking at the skyscrapers. I own a part of several because TIAA-CREF keeps taking over bankrupt office buildings in Minneapolis. Having checked on my retirement funds, I was told where to unload, but left to my own devices to find a parking place. I parked at a meter on the street. Once inside, I learned that, while we paid our fee for the booth, we did not pay for a carpet or table. I decided against the carpet but got the smallest table possible. (Next year, we'll bring our own.) After toting in all those posters, handouts, cards, and flyers, I was stunned to see the electronic gadgetry that our neighbors were setting up to hype their products. I resolved to bring a few papers to correct on Thursday, because I was certain no one would even see the great posters from NGS and AmK's I had (unluckily) taped to the curtain providing our backdrop.

The convention exhibits were to open at 8:00 AM Thursday, so I got there at 7:15 to make sure I could find a spot at a meter. Pat parked free in the staff lot, of course, when she arrived suffering with a painful sprained back. The

COORDINATOR'S COLUMN continued on page 4

MEET OUR NEW LIAISON!

With the ever growing network of Alliance states, the Geography Education Program (GEP) folks at National Geographic Society (NGS) have more and more to do, and have some new troops to help with the tasks. With the shuffling of duties, Charles Sterling has had to give up some states in order to handle overseeing the Teaching Geography Project. Thanks for all your efforts on our behalf, Charles! Be sure to come back and visit us when you go to check on Michigan or Wisconsin!

Hello and welcome, LISA PRAGG, our new liaison! Lisa is the new liaison to CT, DE, MN, NV, PA, and RI. She comes to the GEP after working in the magazine illustration division, a somewhat curious place for someone to end up after graduating from U-Penn with a degree in French. Her first job after college was in Kenya, where she taught English and some business education, so Lisa knows what the teaching life can be like. Raised in Connecticut, Lisa's first experience with the Minnesota Alliance came at our recent Deep Portage camp, where she got to meet some long-time MAGS vets and some new recruits.

On a somewhat related note, word has come from NGS that the Alliance network has grown by several new states. Full Alliance status has been granted to Arkansas, Georgia, Nebraska, New Hampshire, Ohio, South Carolina, and Wisconsin. Planning grant status has been awarded to Iowa, Kansas, Nevada, North Dakota, Puerto Rico, Rhode Island, and Wyoming. Welcome, states!

Important note from the editor:

I have a new address! Note that the header up above includes a new address to send all your great news for inclusion within the Connection. Phone number stays the same, but please note the new address! Thanks, and keep those cards and letters coming! (By the way, can you tell what else is different in this issue?) - Charlie

資料3 全米に配布されている地理教育復興運動の情報誌